

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
社会福祉 専門課程	介護福祉士科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	保育士科 昼間主コース	夜・通信	180 時間	160 時間	
	保育士科 夜間主コース	夜・通信	180 時間	160 時間	
医療専門課程	言語聴覚士科	夜・通信	240 時間	240 時間	
衛生専門課程	調理師科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	パティシエ科 1年制	夜・通信	120 時間	80 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.scw.ac.jp/school/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.scw.ac.jp/school/syllabus/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	2022.3.31 ～ 2026.3.30	適切な情報収集
非常勤	株式会社 役員	2022.3.31 ～ 2026.3.30	財務体制の強化
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。 また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.scw.ac.jp/school/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ○学習評価については学則・学則施行細則であらかじめ設定された下記の成績評価の方法・基準に従い厳格、かつ、適性に履修認定を行なう。 ・成績評価は、定期試験と毎回授業にて実施する小テストの2要素で、評価は「A～F」6段階で評価を行い、D以上を合格とする。 ○学則・学則施行細則は、毎年度当初に学生に配布し、あらかじめ設定された成績評価の方法・基準について説明する。 ・評価分布の判断は「GPA」制度を活用し、実施する。 点数 100～90点＝A評価 (GP=4.0) 点数 89～80点＝B評価 (GP=3.0) 点数 79～70点＝C評価 (GP=2.0) 点数 69～60点＝D評価 (GP=1.0) 点数 59点以下＝F評価 (GP=0.0) ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施) $GPA = (\text{当該科目の単位数} \times \text{各授業で得たGPの合計}) / (\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計})$ ・科目の評価は定期試験60%、毎回の小テスト40%の配分を総合し評価する。 ・定期試験は筆記試験、実技試験、レポートのいずれかで行う。 ・学則施行細則に定める欠席の扱いに沿って欠席扱いを免除した試験の欠席者には追試験を実施する。 ・私的事由による欠席者、及び、定期試験不合格者には再試験を実施する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおり。(GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。)

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{(該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP)の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

客観的な指標の算出方法の公表方法 <https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。
 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。

【ディプロマポリシー】

「建学の理念」と「4つの信頼」に基づいて、「即戦力となる学生を育成し、社会に貢献することを最終目標」とし、特定の職業に従事するために必要な技術・知識、態度、考え方をもった学生を社会・業界に送り出すこととしています。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 学内における様々な教育プログラムを通じて社会人基礎力が培われている。
2. 産業界との連携により職業人・業界人としての人間力を、また社会人としての身構え、気構え、心構えを身につけている。
3. 職種に応じ必要とされる知識・技術、国家資格等を取得することで身につけている。
4. 他者や異文化に対する理解を深め、自らの見解と高い視野を備えた国際感覚を身につけている。

卒業の認定に関する方針の公表方法 <https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
収支計算書又は損益計算書	https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
財産目録	https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
事業報告書	https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
監事による監査報告（書）	https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		社会福祉専門課程	介護福祉士科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2092 単位時間/単位	920 単位時間	722 単位時間	450 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2092 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		70人	13人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>【GPAの算出方法】</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> <p>（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……①</p> <p>GPA = $\frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}} \dots\dots ②$</p>					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E 又は F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
47人 (100%)	0人 (0%)	47人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設 ・介護老人保健施設 ・有料老人ホーム ・障害者支援施設 ・グループホーム ・認知症対応型共同生活介護 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士 ・おもてなしマスター 			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91人	2人	2.2%
(中途退学の主な理由)		
<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識の喪失 		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。 		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・ 社会福祉		社会福祉 専門課程	保育士科 昼間主コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間	420 単位時間	1470 単位時間	380 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2270 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		83人	0人	8人	18人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>【GPAの算出方法】</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> <p>（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……①</p> <p>GPA = $\frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}} \dots\dots\dots \text{②}$</p>					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (%)	38人 (97.4%)	1人 (2.6%)
(主な就職、業界等) ・ 保育所 ・ 障害児入所施設 ・ 児童発達支援センター ・ 放課後等デイサービス ・ 児童養護施設 ・ 乳児院 ・ 母子生活支援施設 ・ 学童 ・ 児童館 ・			
(就職指導内容) ・ 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ 保育士 ・ 幼稚園教諭二種免許 ・ 社会福祉主事任用資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	3人	3.8%
(中途退学の主な理由) ・ メンタル不調のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・ 定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。		

① 学科等の情報
②

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・ 社会福祉		社会福祉 専門課程	保育士科 夜間主コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間	420 単位時間	1470 単位時間	380 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2270 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		38人	0人	8人	18人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>【GPAの算出方法】</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> <p style="text-align: center;">（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……①</p> <p>GPA = $\frac{\text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計 ……②}}$</p>					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	0人 (0%)	24人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所 ・ 障害児入所施設 ・ 児童発達支援センター ・ 放課後等デイサービス ・ 児童養護施設 ・ 乳児院 ・ 母子生活支援施設 ・ 学童 ・ 児童館 ・ 			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。 			
(主な学修成果（資格・検定等））			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士 ・ 幼稚園教諭二種免許 ・ 社会福祉主事任用資格 			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	8人	14.5%
(中途退学の主な理由)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ メンタル不調 ・ 目的意識の喪失 		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・ 定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。 		

① 学科等の情報
②

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	言語聴覚士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2835 単位時間	2175 単位時間	180 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2835 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		109人	0人	6人	32人	38人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。 また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。 【GPAの算出方法】 GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。） GPAの算出方法 GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。） 【GPAを算出する計算式】 （該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……① GPA = $\frac{\text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \dots\dots\dots \text{②}}$					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37人 (100%)	1人 (2.7%)	35人 (94.6%)	1人 (2.7%)
(主な就職、業界等) ・総合病院 ・リハビリテーション専門病院 ・老人保健施設 ・小児関連施設 ・訪問リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・補聴器メーカー代理店			
(就職指導内容) ・担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・言語聴覚士 ・コミュニケーションスキルアップ検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
112人	3人	2.7%
(中途退学の主な理由) ・メンタル不調 ・目的意識の喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	調理師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1860 単位時間	690 単位時間	90 単位時間	1080 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1860 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		136人	7人	7人	14人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>【GPAの算出方法】</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> <p>（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……①</p> <p>GPA = $\frac{\text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計 ……②}}$</p>					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
61人 (100%)	0人 (0%)	56人 (91.8%)	5人 (8.2%)
(主な就職、業界等) ・ホテル ・レストラン ・集団調理施設 ・食品工場 ・洋菓子店 ・カフェ ・ベーカリー			
(就職指導内容) ・担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・調理師 ・専門調理師技術考査 ・食品技術管理専門士 ・製菓衛生師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127人	8人	6.3%
(中途退学の主な理由) ・メンタル不調のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	パティシエ科1年制				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1230 単位時間	390 単位時間	90 単位時間	750 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1230 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		20人	0人	5人	12人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ分野ごとに専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施したうえで、各科目シラバスは2月下旬に作成し、教員間では3月の講師会議・科目連絡会で共有している。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを作成し、年度当初に公表している。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>評価は、定期試験及び毎回授業にて実施する小テストの2要素で100点満点のうち60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断している。</p> <p>【GPAの算出方法】</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおり。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> <p>（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計……①</p> <p>GPA = $\frac{\text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計 ……②}}$</p>					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	E又はF
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の出席率 70%以上出席し、試験に合格した学生を対象として、学校長、教務及び学科教員による卒業進級判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制。個別相談（定期・不定期）、三者面談、家庭訪問を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	18人 (94.7%)	1人 (5.3%)
(主な就職、業界等) ・洋菓子店 ・ホテル ・カフェ ・レストラン ・工場 ・ブライダル ・ベーカリー			
(就職指導内容) ・担任及びキャリアセンターで本人の希望を基に学習修得度や適性等総合的に判断し受験先を決定している。卒業後は生涯就職支援制度でサポートをし続けている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・製菓衛生師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	1人	5%
(中途退学の主な理由) ・メンタル不調		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・月2回の教務会議で退学の危険性がある学生を教職員が共有し、問題の要因分析、退学防止のための対策を考え、実行している。 ・定期的に個人面談を実施、必要に応じてスクールカウンセラーと連携をとっている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考
介護福祉士科	50,000 円	930,000 円	220,000 円	
保育士科 昼間主コース	50,000 円	930,000 円	220,000 円	
保育士科 夜間主コース	50,000 円	930,000 円	220,000 円	
言語聴覚士科	100,000 円	1,150,000 円	220,000 円	
調理師科	50,000 円	1,000,000 円	280,000 円	
パティシエ科 1年制	50,000 円	1,000,000 円	280,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
<p>【目的】</p> <p>①自己評価結果の客観性・透明性を高める。 ②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。</p> <p>【主な評価項目】</p> <p>1 教育理念 2 学校運営 3 教育活動 4 学修成果 5 学生支援 6 教育環境 7 学生の募集と受入れ 8 財務 9 法令等の遵守 10 社会貢献・地域貢献</p> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果の内容が適切か ・自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か ・学校の重点目標や評価項目等が適切か ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か <p>【評価結果の公表・活用】</p> <p>・学校関係者評価委員会等はその評価結果や今後の改善策等についてとりまとめ、広く公表する。学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。</p> <p>【実施体制】</p> <p>学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者評価委員会は、次のような「学校関係者」を選任する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の専門分野における業界関係者 ・卒業生 ・保護者 ・地域住民 ・高等学校の校長 (各区分1名以上の選出)

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉法人清幸会 施設長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	卒業生代表
保育士科昼間主コース 保護者	2022年4月1日～ 2024年3月31日	保護者代表
東京理科大学 講師	2023年4月1日～ 2025年3月31日	高等学校関係者
大宮仲町三丁目自治会 自治会役員	2023年4月1日～ 2025年3月31日	地域関係者
老人保健施設いずみケアセンター 施設長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	業界代表
社会福祉法人宮原ハーモニー 理事長	2023年4月1日～ 2025年3月31日	業界代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.scw.ac.jp/school/jyouhou/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H111310300081
学校名	埼玉福祉保育医療専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		39人	38人	40人
内 訳	第Ⅰ区分	30人	25人	
	第Ⅱ区分	6人	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				40人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	-	0人	-
計	-	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	-	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-	-	0人
計	-	-	0人
(備考) 年間のGPA下位4分の1と出席率8割以下は同一人物			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。